

## カードデザインをご提供いただく場合についてのお願い

■もし、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく、お尋ねください。

### (1)カードデザインについてのお願い

カードデザインをご提供いただく場合には、下記のご注意とお願いがございます。

※可能であれば、「イラストレータ形式」で、不可であれば、「エクセル」でデザインをご提供ください。

1) おおまかで結構ですので、カードサイズ<86mm幅×54mm高さ>に合わせて、「おもて面」「うら面」のイメージをお知らせください。

- ①印刷されたい文字(項目)
- ②表現されたい文字の書体
- ③文字の大小をお示しください。
- ④また、補足したいことは、書き込んでください。

「クレジットカード」や「キャッシュカード」の大きさです。

(ご指示いただく際の例です)



イラストの元データがある場合には、添付ファイルにて、添えてください。

(ご指示いただく際の例です)

左右中央に太い文字が希望

(字体は、お任せします)  
26ptぐらい

カードの右下部に 12ptぐらいで。

2) 画像データ(イラストや写真)などを使用される場合には、

- ①著作権が「フリー」もしくは、ご発注者様が購入されたものをお使いください。  
※著作権のあるものについては、承諾を得たものをご使用ください。
- ②また、フリーのものであれば、入手された「元データ」を添付してください。  
レイアウト上に表示されたものより、  
「大きくて」、「鮮明な」画質のデータとなっていることが多いので、  
デザインを編集する際には、「元データ」を使わせていただきます。
- ③もし、「元データ」が不明という場合もちろん、ご心配には、及びません。  
いただいたデータから、「それなり」にカードをお作りさせていただきます。

イラストレータでのデータ提供が  
いただける場合は、下記サイトを  
ご参照ください。

<http://www.idcard.jp/design-021.htm>

3) ご発注されたい数量もお忘れなく。

## (2)「塗り足し」についてのご説明

赤線部は、「カットサイズ」を示しています。

<例 1>



<例 2>



赤線部は、「カットサイズ」を示しています。

…カード全面にデザインがある場合には、「塗り足し」が必要です。

カードの端まで、デザインがある場合には、「3mm」程度の余白＝塗り足し＝が必要です。

通常、印刷物は、

- (1)「1枚分の用紙(プラスチック板)」を使って、印刷をしません。
- (2)「30面から40面ぐらいに面付け」をして、「大きな用紙(プラスチック板)」に、印刷をします。  
…新聞紙ぐらいの「用紙」に印刷することが多いようです。
- (3)印刷した後で、「1枚ごとの用紙サイズ」に切り分けて、仕上げます。＝断裁加工といいます＝
- (4)この「断裁加工」をする際に、0.1mmから0.5mm程度に「誤差」が生じることがあります。
- (5)印刷した用紙に「余白」＝塗り足し＝があることで、その「誤差」を目立たなくさせることができます。

図を見比べていただくとご理解いただけると思います。

<例 1>は、「カットサイズ」と「デザインサイズ」が同じです。  
<例 2>は、「デザインサイズ」を実際のカットサイズより大きく、仕上げています。

下の<例 2>であれば、多少の断裁時の「誤差」が目立たないことが、ご理解いただけるものと思います。

<例 1>ですと、少しの「誤差」で、白い下地が見えてしまいデザインを損なうこととなります。

<例 2>の「余白部分」のことを「塗り足し」と言います。

「塗り足し」がないデザインの場合には、

- ①少し内側で断裁する、もしくは②塗り足し部分を追加する

### (3)プラスチックカード印刷の2つの特長

#### (1)プラスチックカード<PVCカード>の印刷は、「オフセット印刷」では、表現できない「色」が使われます。

一般の印刷物は、4つの版を作成して、さまざまな色の表現をして、印刷をします。  
「C<シアン・青紫>、M<マゼンタ・赤紫>、Y<イエロー・黄>、K<ブラック・黒>」の4つの「版」で、すべての色を表現します。  
家庭用の「インクジェットプリンター」では、4色のインクで印刷をしますが、業務用の印刷機の場合には、CMYKの「4つの版」を作成して、さまざまな色の表現をします。

#### 1)プラスチックカード<PVCカード>の場合は、「シルク印刷」と「オフセット印刷」を併用しています。

プラスチックカードの場合、しばしば**「金」や「銀」など、オフセット印刷では、表現できない色を使用されます。**

こうした色の場合は、屋外看板などで、使用される「シルク印刷」という方法で印刷します。

また、「金」、「銀」などの「ラメ感」を表現する場合には、「アルミ粉」をインクに混ぜて表現します。

※**「赤」や「黄」などの「原色系の濃い色」**も、見栄えのいい「シルク印刷」で作成することが多いようです。

ただし、「シルク印刷」は、細密な文字や絵柄の印刷には、適していません。

このため、「下地の印刷をシルク印刷で作成」し、その上に「オフセット印刷」で、文字や絵柄を表現することもございます。

**※なお「PETカード」は、「オフセット印刷」で作成します。「シルク印刷」は使用しません。**

<ご参考>印刷物の色指定は、「DIC番号」で指定をします。

①印刷物の色の指定は、「DIC番号」で指定をします。■ウィキペディアの説明は、こちらです。 <http://bit.ly/JFN6ji>

看板などの塗料の分野では、「マンセル」という規格に準じて、色の指示をします。

印刷業界(プラスチックカードを含む)では、「DIC番号」を用いています。

②DIC番号というのは、インクメーカーである「DIC株式会社」が発行している「色見本帳(カラーガイド)の番号です。

③最近では、「iphone、iPad用」や「Android用」に無料で、ダウンロードできるものが用意されています。

もし、アンドロイドやiphoneをお使いであれば、お試しください。

<http://itunes.apple.com/jp/app/karagaido/id405007873?mt=8>

<http://www.dic-graphics.co.jp/products/dcguide/android.html>

④ただし、画面で見える場合には、「モニター」の状況により、色合いが変わって見えることがあります。

「画面での色」は、あくまでも、ご参考としてご利用ください。

⑤「色」の指定は、お客様にとりましては、重要な指図の一つとなっています。

印刷物は、多くの作業者の手を経て、作業を進めています。このため、「伝言ゲーム」のように「最初と最後が食い違う」ことにならないための指針となるものであれば、どんなものでも結構です。

**「カラーガイド」がない場合には、「チラシ」や「カタログ」など、身近にあるものから「色見本」となるものをお送りください。**

現場での作業者が「色調整」をする際の「(仕上がり)色見本」として、使用させていただきます。

## (2)プラスチックカードの印刷は、「単色(1色)印刷」が多いのも特長です。

プラスチックカードのサイズは、「幅 86mm × 高 54mm」のJIS規格で定められた大きさになっています。

「印刷物のデザイン」としては、「限られた、小さなスペースに表現する」こととなります。

このため、色数の少ないデザインのもの好まれています。

「デザインの複雑なもの」や「色数の多いもの」は印象が薄くなりがちです。

2)プラスチックカードの場合は、少ない色数のカードが映えます。「単色(1色)印刷」が目立ちます。

「色数の少ないカード」の方がインパクトがあり、印象深くなります。

たとえば、「ゴールドカード」や「シルバーカード」などは、「下地の色を活かす」ようなシンプルなデザインのものが多くなります。

また、「オレンジカード」や「ブラックカード」というように、「単色」のものは、「色」そのものの印象も強く、カードの愛称として使われる事例も多いようです。

<ご参考> 色指定の例です。

<1>右の「ロゴマーク」は、

①「CMYK」の4版を使って印刷する場合の指示が表示されています。

②また、「DIC2496P」という色を使って印刷する場合の指示も添えられています。

このように、「単色」を使って表現できる「マーク」や「絵柄」ですと、版代も少なく済み、カードが安価に作成できることとなります。

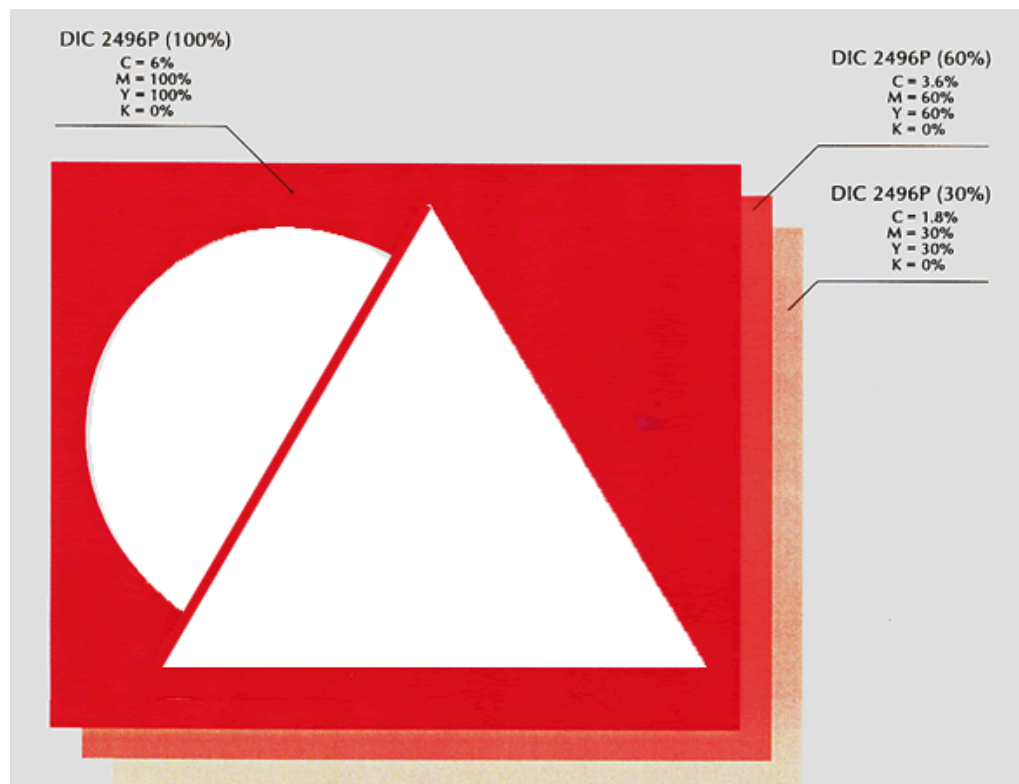
※コココーラ様の「赤地に白のロゴマーク」は、秀逸なデザインだと思います。

あらゆる印刷物(封筒や名刺、段ボールケースなど)にも対応しやすく便利です。

※当然ですが、「色数」が増えれば、印刷代は高くなりますね。

<2>デザインとしては、「下地の色」

(基本は「白」)を活用すると、インパクトのあるデザインになることが多いようです。

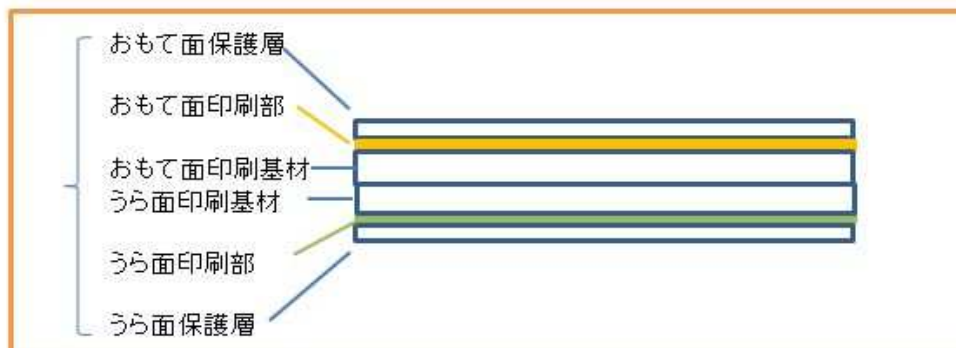


#### (4)プラスチックカードには、「3タイプ」があります。

(1)もっともよく使用されているのが、「PVC(ピーブイシー)カード」です。加工適性も優れています。

「クレジットカード」や「銀行カード」など、最もよくご覧になるカードは、「PVCカード」と呼ばれるカードです。JIS規格にも定められています。サイズは、簡略表記で、「幅 86mm × 高 54mm 厚み 0.76mm、角3mmR」となっています。

①基本のカードは、「0.76mm厚」となっており、4層構造で作成しています。(工場によっては、「3層構造」のところもあります。)



②印刷面は保護層で、覆われていますので、印刷の耐久性もあり、高品位の印刷を長期間保持することができます。

③顔写真入りの「社員証」や「会員証」をプラスチックカードプリンターで印刷をされる場合には、「保護層」の上に印刷をします。弊社では、「印字適性」を備えた「素材」(保護層)を使用しています。  
※他社様では「印字適性」を備えていない素材を使用されている例もございます。

④最近、人気の「IC(アイシー)カード」なども、ほぼ「PVCカード」の規格に準拠しています。<PVCカードが「カードの標準」となっています>

(2)「PVC(ピーブイシー) 048mm厚カード」 …「耐久性のある印字品質」と「薄さ」(携帯性)を両立したカードです。

①「0.48mm厚」のカードもご提供しています。

②印刷基材の両面に印刷をし、上下に「保護層」を合わせた「3層構造」のカードも作成しています。  
…標準の「PVCカード」では、厚すぎるというお客様に、おすすめしています。

(3)「PET(ペット) 0.25mm厚カード」 …「クオカード」や「図書カード」、などに使用されています。

①PETを素材にした「0.25mm厚」のカードもご提供しています。

②印刷基材の両面に印刷をし、上下に「保護層」のないカードとなります。

※PVCカードに比べて、耐久性が劣りますが、「薄くて安価にできる」ことから、使用されることが多くなっています。

③最近では、PETボトルを再利用した「再生PET」という素材もよく、使用されています。

※通常のPETカードと比べて、やや「白色度が劣ります」が、ボールペンなどでの筆記性がよく、エコ商品として、人気急上昇中です。



#### (4)「ポイントカード(リライト式)」

…リライト式ポイントカードには、前項の「PETカード」が使用されています。

①リライト式ポイントカードの場合は、PETを素材にした「0.25mm厚」と「0.188mm厚」の2種類のカードが使用されています。

※文字を繰り返し、書き換えて使用するポイントカードのことを「リライトカード(書き直しカード)」と呼びます。

※メーカー、機種により、使用される「カードの厚み」が限定されますので、ご注意ください。

②印刷基材の両面に印刷をし、上下に「保護層」のないカードとなります。

③また、「PET(ペット)カード」と違い、カードの裏面には、データの記録ができる「磁気層」が塗工されています。

④おもて面は、印字の発色方式の違いにより、「3種類」のものがございます。

(左): ロイコ式カード 文字が読みやすいことから、もっとも使用されているカードです。

※発色剤の違いから、「黒い文字の黒ロイコカード」と「青い文字の青ロイコカード」の2種類に分けられています。

(中): 白濁式カード 銀地に「白い文字」で発色します。

※以前は、よく使用されていました。最近では、「ロイコ式カード」が主役となっています。

(右): サーマルカード 文字を書き換えるのではなく、書き加えていくタイプのカードです。

※「追記式(つきしき)カード」とも呼ばれています。マークや文字を書き足していきます。

※ゴルフ場などの「プリペイドカード」などで、使用されています。



<ご参考> カードの使いかたについて

「メンバーズカード」や「ポイントカード」など、「カード」はややもすると、見栄えのいい「カードを作ること」だけに興味がいきがちです。

「カッコのよいデザイン」、「ゴージャスなイメージ」のカードを作りたいというお客様は、多くいらっしゃいます。

「どうしたら、売上があがるの?」、「どういう使いかたをするといいの?」と尋ねられるお客様は、ほとんど、いらっしゃいません。

**「カード」は、商売繁盛の素(もと)! 上手に使って、売上アップをしていただきたいと思っています。**

**「カードは、作る事がゴール(目的)ではありません。」 「売上を上げる」(本当の目的)のために、使う「手段」ということをお忘れないよう、よろしくお願い申し上げます。 ぜひ、よい成果をお聞かせください。**

## (5) 印刷データに「イラストレータ」というソフトが使用されている理由(わけ)

(1)印刷をする場合のデータは、「イラストレータ」というソフトを使って作成します。

※エクセルでいただいたデータは、「イラストレータ」のソフトに置き換えて、再編集をいたします。

「イラストレータ」というソフトを使用するには、「4つの理由」があります。一般のソフトにはない機能です。

1)「フォントの再現性」に優れています。…文字の書体を「フォント」と呼びます。＝アウトラインフォント機能＝

①通常は、それぞれのパソコンにインストールされている字体を使って、デザイン(イメージ)を表現します。  
あるいは、さらに『字体を編集して』、よりインパクトのある字体にすることもあります。

**例) 書体-1**

<= 左の文字は、「HGS創英ポップ体」という文字を使っています。

**例) 書体-2**

<= 左の文字は、「HGS創英ポップ体」という文字を使って、「太字」にし、さらに、「斜体」にして、文字のイメージを編集しています。

②せっかく、編集して作成した「書体」も、同じフォント(例では、「HGS創英ポップ体」)がインストールされていないパソコンでは、イメージ通りには、表示されません。(文字化けとなってしまいます。)

③「イラストレータ」というソフトでは、「文字の輪郭をなぞって、図形データに変換する機能」があります。  
「アウトラインフォント」と呼ばれている機能です。

図形データに変換されたデータ(文字)であれば、使用するパソコンに、同じ書体がなくてもイラストレータのソフトがあれば、どのパソコンでも同じフォントが表現できることとなります。

2)データの「拡大・縮小」機能に優れています。

一般に使用されている画像データ(例:JPEG形式など)は、画像の解像度が粗く、印刷物には適していません。特に、小さな画像を拡大した場合には、図形が滲んだり、「ぼやけてしまいます。

小さいと目立たない「文字」や「絵柄」ですが、拡大してみるとギザギザや滲みが目立つものがあります。

tc

tc

イラストレータの場合には、専門用語になりますが、「ベクトルデータ」になっていますので、拡大、縮小しても、きれいに表現ができます。

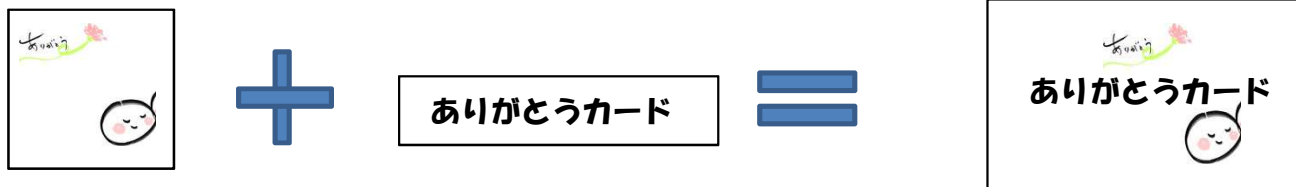
3) 印刷に使用する「4つの版のデータを自動生成する機能」があります。

一般の印刷物は、4つの版を作成して、さまざまな色の表現をして、印刷をします。  
イラストレータには、印刷に使用する「C<シアン・青紫>、M<マゼンタ・赤紫>、Y<イエロー・黄>、K<ブラック・黒>」の4つの版、それぞれのデータを自動生成する機能があります。

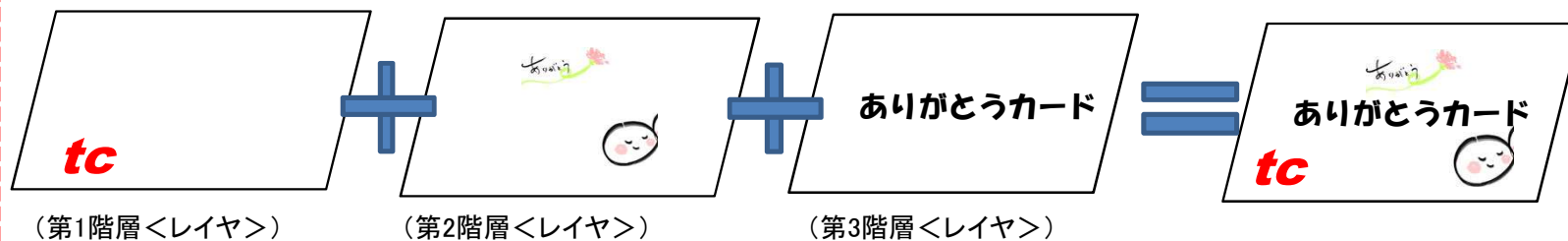
4) 画像データが、編集しやすい構造<レイヤ・階層>になっています。

皆さんがお使いの「エクセル」では、画像のデータを重ねることができます。

下図のようなイメージです。



【イラストレータ】では、画像だけでなく、データ(文字等)ごとに、レイヤ<階層>を作り、重ね合わせることができます。



各パーツごとの編集が、「階層<レイヤ>」ごとにできるのが、特長となっています。

(例) **tc** を **tc** にすることが、簡単にできます。

※上図の例ですと、第1階層(レイヤ)の修正だけで、変更が完了です。

※JPEG形式の画像を「ワンピースのドレス<一体型>」としますと、

イラストレータのデータは、文字通り、「レイヤードルック(重ね着スタイル)」です。  
「パーツ」を変えることで、デザインの変更やイメージを簡単に変更することができます。

※なお、イラストレータのデータでご提供いただいたデータでも、  
JPEG形式で作成されたもの場合には、レイヤでの編集ができません。



(2012/05改訂)